

花の道部門

総 評

植付後は比較的、平年並みの穏やかな気象条件でしたが、7月に入って酷暑が続き、水やり・肥培管理・花がらつみなどにとっても苦労されたと思います。そんな中でも皆さんの花たちは昨年以上にしっかりと地に根を張り、空に向かって輝いていました。なによりも、皆さんの花の道が周囲の里山、田園、小川、海沿いの松、家並みらにとけ込み、その地にあたわったとても自然な風景を形づくっていました。羨ましい限りでした。

花好きな県内外の方々、そんな、もうあるのがしごく自然な花たちの地を是非、探訪・散策され、お世話されている皆さんと一時を過ごされてはいかがでしょう—名所旧跡とは別口の富山の一押しですよ。①小さなプランターで、あんなに鮮やか白いペチニユアをどうやって（射水・土田）、②ローズマリー・ガウラ、アガパンサス、こぼれ種のマツバボタンなど、手をかけず育つ草種をうまく使ってますね、バジルもグッド（高岡・下伏間江、富山・上大久保ら）、③背後の広い田んぼ法面、草刈り大変でしょう、緑のキャンパスに何か花描きしたくなりますね—南砺・東太美しいところとか、④90歳過ぎても頑張れる秘訣はなにけ、若い人も手伝ってほしいですね（南砺・広安ら）・・・などなど、話が弾むこと間違いありません。

審査の道中、県内有数の素晴らしい花の道であった地を訪れました。草付きとなっていました。地域の人口減少、やりたいことが多いご時世など、世の中の流れの一つの結果であり、逆らうことは至難と思います。ただ、少なくとも今、この時に県内各地で花に親しむ皆さんが“あと10年もデキンチャ”と10年後もボヤキながらも花と過ごしていただけたらなあと思っています。物心両面での各方面からのサポートあつてのことですが・・・

最優秀賞評

富山市の「新庄北小学校&地域団体」が2度目の最優秀賞となりました。小学校に沿った堤防を利用した、幅110cm、長さ123mの細長い花の道です。

代々の小学3年生が班に分かれ、デザインづくり、ペゴニア・サルビアなどの花苗づくり、毎日の水やりなどにはげみ、春の芝桜、ヒガンバナに始まり、夏の多彩な花たち、秋の真っ赤なコキアなど一年を通してお花たちと語らい、親しみ、友達になり、心豊かになっている「お花とお子さん達の楽園」です。

①班ごとの個性あふれるデザイン・生き活きとした生育に加え、全体を通して黄色いルドベキアが一体感を醸成し、さらに素晴らしいのは、②多彩な交流会、行事—芝桜を見る会、さつまいも掘り、123m花畑を見る会、写真コンテストなどを開催されている、お子さん達を囲む地域の皆さん—PTA、社会福祉協議会、花緑地方銀行などの知恵と実行力です。

地域のお子さん達を中心に据え、取り巻く大人たちが寄り添った花育・地域共生の組織づくり、“子どもをダシにして、大人たちが楽しんでいる”とも言えますが、花の地の存続に悩む各地の皆さんにとって大いに参考になると思います。探訪必見の地です。プレゼン上手な世話人の皆さんが歓迎してくれますよ——。

（審査委員長 石黒哲也）